

## **若林区荒町地区民生委員児童委員協議会**

(平成 26 年 3 月 28 日掲載)

平成 23 年 3 月 11 日、荒町地区には、仙台駅や仙台駅近辺のホテルに宿泊していた帰宅困難者などが大勢集まり、荒町市民センターには約 450 名、荒町小学校には約 1,400 名の方々が避難してきました。近隣の五橋中学校で避難者を受け入れていたこともあり、正確には把握できませんが、おそらく合計 2,000 名以上の方々が避難していたと思います。

避難者を受け入れた荒町市民センターや荒町小学校は新しい建物だったこともあり、比較的安全でしたが、数日後には建物に細かなひびが入っていたことがわかったようです。

震災当日の天候はみぞれが降り、気温も低かったのですが、停電で電気が使えませんでした。ダルマストーブを使用しましたが、広い体育館ではストーブの数が足りず、寒さを防ぐことはできませんでした。

食料に関してはアルファ米があったとはいえ、約 2,000 名の食事としては不足していました。そこで地域の方々が一旦自宅に戻り、食料を持ってきてくれたおかげで、なんとか皆で協力して食事を作ることができました。

その後電気は比較的早く復旧したので、荒町小学校の家庭科室を使って食事作りを行ないましたが、ブレーカーが落ちてしまうこともありました。一方、荒町市民センターでは I H ヒーターが使えたため、食事の煮炊きをすることはできました。また、大きなガスボンベがなくなったときには、外で食事を作ったこともありました。

3 月 31 日までは、地域の方々が協力して手伝ってくださり、たいへん助かりました。4 月以降は仙台市から派遣されたサポートセンターの職員やボランティアに任せ、民生委員による避難者の食事作りの活動は終了しました。

荒町地区は、震災当時の帰宅困難者等の避難が多かったこともあり、市やサポートセンターが実施していた避難者のための月 1 回の「お楽しみ会」も、参加者が少なくなったことから平成 25 年 6 月に活動を終了しました。震災前から実施していた年 1 回の防災訓練は、私たちも地域住民の方も震災後はこれまでよりも意識をもって取り組んでいます。今後も、災害に備える意識をもって、日ごろの訪問・支援活動をすすめていきたいと思っています。